

### 2023年 Honda モータースポーツ活動計画

Honda は、2023年のモータースポーツ活動計画に関する発表会を行いました。以下、登壇した取締役 執行役専務 青山 真二のスピーチ概要ならびにモータースポーツ活動計画をお知らせします。

#### ■本田技研工業株式会社 取締役 執行役専務 青山 真二スピーチ概要

Honda は、創業者である本田宗一郎が技術で世界一になることを求めて 1959 年のマン島 TT レースに初参戦して以来、世界中のさまざまな二輪・四輪レースに参戦し続けてきました。多くの先人達が世界を舞台に戦う中で、何度難題にぶつかっても、あきらめずに「挑戦」を続けることでそれを克服し、勝利を積み重ねてきました。モータースポーツにおいては、この姿勢こそが人と技術を磨くためにも必要不可欠であり、その活動の根源にあるものと言えます。これからも、この「チャレンジ」の志をさらに強くし、共に闘う関係者、ライダー・ドライバーの皆様と一緒に展開していきます。

一方、モータースポーツにおいて、取り組むべきもう一つの命題があります。それは「カーボンニュートラルの実現」です。Honda は既にモータースポーツフィールドも積極的に使い、カーボンニュートラル技術の研究開発を進めておりますが、今後はレース活動においての実用化に向けて取り組みを強化していきます。また、二輪を皮切りに実際のレースへの電動車両の投入も検討していきます。

また、今年により強いレースブランドを目指し、株式会社ホンダ・レーシング（HRC）がこれまでの二輪レース活動機能に加えて四輪レース活動も担う新体制となりました。2 輪、4 輪のレース活動を束ねたことで、ヒトと技術両面での交流が可能となり、シナジーを目指した活発な活動が行われるようになりました。まだ、その兆しという段階ではありますが、それぞれの分野が持っている技術・ノウハウの相互連携の効果が、レース現場で少しずつ出てきています。例えば、四輪で参加型モータースポーツ向けのベース車両の供給を検討していますが、その開発・供給には、既に同様の活動を行っている二輪のノウハウを共有することができます。このように、二輪・四輪シナジー効果を最大限に活用することで、レースでの好成績に繋げると同時に、より多くのお客様に Honda の技術やモータースポーツを楽しんでいただける参加型モータースポーツの取り組みも強化し、すそ野を広げて行きたいと思っております。

2023 年も世界中のモータースポーツファンの皆様や Honda ファンの皆様、そしてお客様のご期待にお応えし、夢や感動をお届けできるよう、Honda は引き続きモータースポーツ活動に力を注ぎ、チャレンジを続けてまいります

## 【二輪モータースポーツ活動】

2022年のFIM<sup>※1</sup>ロードレース世界選手権(MotoGP)では未勝利に終わり大変悔しいシーズンとなりました。後半戦では4度目の手術により戦列を離脱していたマルク・マルケス選手が復帰し、表彰台を獲得しました。しかしながら、FIMモトクロス世界選手権(MXGP)ではティム・ガイザー選手が、FIMトライアル世界選手権シリーズ(TrialGP)ではトニー・ボウ選手が、それぞれチャンピオンを獲得しており、MotoGPのタイトル奪還は最重要課題のひとつです。すでに2022年の後半戦から、四輪レース部門のエアロダイナミクスの知見を投入して、空力性能改善などの二輪・四輪シナジー効果が現れてきており、今後は燃焼技術の領域でも二輪、四輪の共創により競争力を強化していきます。さらに2020年のチャンピオンであるジョアン・ミル選手がRepsol Honda Team(レプソル・ホンダ・チーム)に、アレックス・リンス選手がLCR Honda CASTROL(エルシーアール・ホンダ・カストロール)に加入します。よりチーム体制も強化を図ることで、MotoGPのライダー・コンストラクター・チームの三冠タイトル奪還を目指します。

若手育成では、MotoGPのMoto2・Moto3クラスに参戦するHonda Team Asia(ホンダ・チーム・アジア)の活動は、2022年に10周年の節目のシーズンをむかえ、Moto2で小椋藍(おぐら・あい)選手が、最終戦までチャンピオン争いをする活躍を見せました。2023年も引き続きHonda Team Asiaの活動を継続するとともに、若手育成のプログラムとしてIDEMITSU Asia Talent Cup(イデミツ・アジア・タレント・カップ)を引き続き活用し、世界で活躍できるライダーのさらなる発掘・育成に取り組みます。

## 【四輪モータースポーツ活動】

2022年は、パワーユニット(PU)サプライヤーとして参戦したFIA<sup>※2</sup>フォーミュラ・ワン世界選手権(F1)において、Red Bull Group(レッドブル・グループ)からの要請のもとに、Hondaのパワーユニット(PU)技術を用いたPUでF1に参戦するレッドブル・グループ傘下のScuderia AlphaTauri(スクーデリア・アルファタウリ)とOracle Red Bull Racing(オラクル・レッドブル・レーシング)にPUを供給するRed Bull Powertrains(レッドブル・パワートレインズ)をHRCが支援し、Oracle Red Bull Racingのドライバー・コンストラクター両部門制覇に貢献しました。2023年も同様の支援を継続していきます。また、Scuderia AlphaTauriでF1参戦3年目を迎える角田裕毅(つのだ・ゆうき)選手に続いて、世界最高峰カテゴリーを目指している日本人若手ドライバーのFIAフォーミュラ・ツー選手権(F2)などへの参戦をサポートしていきます。

国内レースでは、SUPER GT GT500クラスではチーム体制を刷新して3年ぶりとなるタイトル奪還に挑みます。また、2022年シーズンに連覇を達成した全日本スーパーフォーミュラ選手権においては、新たに米国のホンダ・パフォーマンス・ディベロップメント(HPD)のスカラシップを獲得したドライバーが参戦するなど新たなドライバーも迎え、三連覇を狙っていきます。

北米においてはインディカー・シリーズに参戦する6チーム15台に、HPDを通じてエンジンを供給します。また、IMSA<sup>※3</sup>ウェザーテック・スポーツカー選手権ではHPDが供給するAcura(アキュラ)ブランドのマシン「ARX-06」でふたつのチームが参戦します。

※1 FIMとは、Fédération Internationale de Motocyclisme(国際モーターサイクリズム連盟)の略称

※2 FIAとは、Fédération Internationale de l'Automobile(国際自動車連盟)の略称

※3 IMSAとは、International Motor Sports Association(国際モータースポーツ協会)の略称

## ■参戦体制概要

2022年12月12日発表時点

<以下、敬称略>

### 《二輪参戦体制概要》

### 《世界選手権》

#### ◆FIM ロードレース世界選手権 (MotoGP)

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Repsol Honda Team (レプソル・ホンダ・チーム) ☆※4	RC213V ☆※4	36	Joan Mir (ジョアン・ミル) ☆※4	25	スペイン	MotoGP 15位
		93	Marc Márquez (マルク・マルケス) ☆	29	スペイン	MotoGP 13位
LCR Honda IDEMITSU (エルシーアール・ホンダ・イデミツ)		30	中上 貴晶 (ナカガミ・タカアキ) ☆	30	日本 (千葉県)	MotoGP 18位
LCR Honda CASTROL (エルシーアール・ホンダ・カストロール)		42	Álex Rins (アレックス・リンス) ☆	27	スペイン	MotoGP 7位

※4 “チーム名”の☆印はワークスチーム、“マシン”の☆印はワークスマシン、“ライダー”の☆印はHRC契約を示す

#### ◆FIM スーパーバイク世界選手権 (WSBK) 2023年3月3日更新

<WSBK>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Team HRC (チーム・エイチアールシー) ☆	CBR1000RR-R FIREBLADE SP ☆	7	Iker Lecuona (イケル・レクオーナ) ☆	22	スペイン	WSBK 9位
		97	Xavi Vierge (チャビ・ビエルゲ) ☆	25	スペイン	WSBK 10位
PETRONAS MIE Racing Honda Team (ペトロナス・エムアイイー・ レーシング・ホンダ・チーム)	CBR1000RR-R FIREBLADE SP	35	Hafizh Syahrin (ハフィズ・シャーリン)	28	マレーシア	WSBK 23位
		51	Eric Granado (エリック・グラナド)	26	ブラジル	MotoE 2位

<WSSP>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
PETRONAS MIE MS Racing Honda Team (ペトロナス・エムアイイー・エムエス・ レーシング・ホンダ・チーム)	CBR600RR	95	Tarran Mackenzie (タラン・マッケンジー)	27	英国	BSB 7位
		7	Adam Norrodin (アダム・ノロディン)	24	マレーシア	ARRC ASB1000 8位

### ◆FIM 世界耐久選手権 (EWC)

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
F.C.C. TSR Honda France (エフシーシー・ディーエスアール・ホンダ・フランス)	CBR1000RR-R FIREBLADE SP	1	Josh Hook (ジョシュ・フック)	29	オーストラリア	EWC チャンピオン
			Mike Di Meglio (マイク・ディ・メリオ)	34	フランス	
			Alan Techer (アラン・テシェ)	28	フランス	FSBK 3位

### ◆FIM モトクロス世界選手権 (MXGP)

<MXGP>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Team HRC (チーム・エイチアールシー) ☆	CRF450R ☆	70	Ruben Fernandez (ルーベン・フェルナンデス) ☆	23	スペイン	MXGP 8位
		243	Tim Gajser (ティム・ガイザー) ☆	26	スロベニア	MXGP チャンピオン

### ◆FIM トライアル世界選手権シリーズ (TrialGP)

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Repsol Honda Team (レプソル・ホンダ・チーム) ☆	Montesa COTA 4RT ☆	1	Toni Bou (トニー・ボウ) ☆	36	スペイン	TrialGP チャンピオン
		38	Gabriel Marcelli (ガブリエル・マルセリ) ☆	22	スペイン	TrialGP 5位

### ◆FIM 世界ラリーレイド選手権 (ダカールラリー2023)

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Monster Energy Honda Team (モンスターエナジー・ホンダ・チーム) ☆	CRF450 RALLY ☆	2	Ricky Brabec (リッキー・ブラベック) ☆	31	米国	ダカールラリー 総合7位
		7	Pablo Quintanilla (パブロ・キンタニラ) ☆	36	チリ	ダカールラリー 総合2位
		11	José Ignacio Cornejo (ホセ・イグナシオ・コルネホ) ☆	28	チリ	ダカールラリー 総合6位
		42	Adrien Van Beveren (エイドリアン・ヴァン・ベバレン) ☆	31	フランス	ダカールラリー 総合4位

《日本》 2023年3月3日更新

◆MFJ<sup>※5</sup>全日本ロードレース選手権 (JRR)

<JSB1000>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Astemo Honda Dream SI Racing (アステモ・ホンダ・ドリーム・ エス・アイ・レーシング)	CBR1000RR-R FIREBLADE	4	作本 輝介 (サクモト・コウスケ)	26	日本 (鹿児島県)	JSB1000 4位
		36	水野 涼 (ミズノ・リョウ)	24	日本 (群馬県)	BSB 23位
Team ATJ (チーム・エーティージェー)		7	岩田 悟 (イワタ・サトル)	36	日本 (東京都)	JSB1000 7位
TOHO Racing (トーホー・レーシング)		10	清成 龍一 (キヨナリ・リュウイチ)	40	日本 (埼玉県)	JSB1000 10位
MurayamaUnso.Honda Dream.K.W (ムラヤマウンソー・ホンダ・ ドリーム・ケイ・ダブル)		12	秋吉 耕佑 (アキヨシ・コウスケ)	48	日本 (福岡県)	JSB1000 12位
SDG Honda Racing (エスディージー・ホンダ レーシング)		15	名越 哲平 (ナゴエ・テツペイ)	25	日本 (東京都)	JSB1000 15位
Honda Dream RT 桜井ホンダ (ホンダ・ドリーム・アールティー・ サクライホンダ)		38	伊藤 和輝 (イトウ・カズキ)	22	日本 (東京都)	ST1000 19位

※5 MFJ とは、Motorcycle Federation of Japan (一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会) の略称

<ST1000>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Astemo Honda Dream SI Racing (アステモ・ホンダ・ドリーム・ エス・アイ・レーシング)	CBR1000RR-R FIREBLADE	1	渡辺 一馬 (ワタナベ・カズマ)	32	日本 (栃木県)	ST1000 チャンピオン
TOHO Racing (トーホー・レーシング)		2	國峰 啄磨 (クニミネ・タクマ)	24	日本 (群馬県)	ST1000 2位
日本郵便 Honda Dream TP (ニッポンユウビン・ホンダ・ ドリーム・ティーピー)		3	高橋 裕紀 (タカハシ・ユウキ)	38	日本 (埼玉県)	ST1000 3位
		36	高橋 巧 (タカハシ・タクミ) ☆	33	日本 (埼玉県)	BSB 20位
MOTO BUM HONDA (モトバム・ホンダ)		21	松川 泰宏 (マツカワ・ヤスヒロ)	47	日本 (兵庫県)	ST1000 21位
		27	荒川 晃大 (アラカワ・コウタ)	20	日本 (東京都)	ST600 チャンピオン
SDG Motor Sports RT HARC-PRO. (エスディージー・モーター スポーツ・アールティ・ ハルク・プロ)		32	榎戸 育寛 (エノキド・イクヒロ)	24	日本 (東京都)	JSB1000 8位
		33	國井 勇輝 (クニイ・ユウキ)	20	日本 (東京都)	ST600 8位

<ST600>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
日本郵便 Honda Dream TP (ニッポンユウビン・ホンダ・ ドリーム・ティーピー)	CBR600RR	2	小山 知良 (コヤマ・トモヨシ)	39	日本 (神奈川県)	ST600 2位
TN45 with MotoUP Racing Team (ティーエヌフォーティー ファイブ・ウィズ・モトアップ・ レーシング・チーム)		5	羽田 太河 (ハダ・タイガ)	24	日本 (山梨県)	ST600 5位
		29	藤田 哲弥 (フジタ・テツヤ)	19	日本 (群馬県)	ST600 参戦
MOTO BUM HONDA (モトバム・ホンダ)		6	鈴木 光来 (スズキ・コウキ)	22	日本 (神奈川県)	ST600 6位
		10	伊藤 元治 (イトウ・モトハル)	23	日本 (埼玉県)	ST600 10位
		27	青田 魁 (アオタ・カイ)	17	日本 (埼玉県)	筑波 ST600 チャンピオン
		32	櫻井 賢一 (サクライ・ケンイチ)	51	日本 (東京都)	ST600 参戦
Astemo Honda Dream SI Racing (アステモ・ホンダ・ドリーム・ エス・アイ・レーシング)		31	Burupa Wanmoon (ブラパ・ワンムーン)	14	タイ	タイタレント カップ 7位

## ◆MFJ 全日本モトクロス選手権 (JMX)

<IA1>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Honda Dream Racing Bells (ホンダ・ドリーム・レーシング・ベルズ)	CRF450R	4	大城 魁之輔 (オオシロ・カイノスケ)	23	日本 (沖縄県)	IA1 4位
		6	大倉 由揮 (オオクラ・ユウキ)	24	日本 (大阪府)	IA1 6位
TEAM HAMMER ホンダ学園 (チーム・ハマー・ホンダ・ガクエン)		5	小方 誠 (オガタ・マコト)	37	日本 (神奈川県)	IA1 5位
		19	池谷 優太 (イケガヤ・ユウタ)	33	日本 (静岡県)	IA1 19位
T.E.SPORT (ティー・イー・スポーツ)		7	大塚 豪太 (オオツカ・ゴウタ)	26	日本 (栃木県)	IA1 7位
		17	小野 千成 (オノ・カズノリ)	23	日本 (東京都)	IA1 17位
Bells Racing (ベルズ・レーシング)		10	小島 庸平 (コジマ・ヨウヘイ)	37	日本 (三重県)	IA1 10位
TEAM KOHSAKA with CARVEK & バイカーズステーション金沢 (チーム・コウサカ・ウイズ・カーベック・ バイカーズステーションカナザワ)		12	道脇 右京 (ミチワキ・ウキョウ)	29	日本 (愛知県)	IA1 12位
TEAM KOHSAKA (チーム・コウサカ)		24	道脇 白龍 (ミチワキ・ハクリュウ)	25	日本 (愛知県)	IA1 24位

<IA2>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2021年戦績
Bells Racing (ベルズ・レーシング)	CRF250R	3	柳瀬 大河 (ヤナセ・タイガ)	18	日本 (愛知県)	IA2 3位
TKM motor sports いわて (ディーケーエム・ モータースポーツ・イワテ)		5	横澤 拓夢 (ヨコサワ・タクム)	25	日本 (岩手県)	IA2 5位
		07	佐藤 カ (サトウ・リキ)	19	日本 (秋田県)	IB-OPEN 7位
TEAM HAMMER・ホンダ学園 (チーム・ハマー・ホンダ・ガクエン)		7	鈴木 英喜 (スズムラ・エイキ)	23	日本 (石川県)	IA2 7位
		TBA	鈴木 龍星 (スズキ・リュウセイ)	19	日本 (埼玉県)	IA1 21位
		TBA	藤井 一輝 (フジイ・カズキ)	18	日本 (福岡県)	IA2 参戦
		39	高橋 央真 (タカハシ・オウシ)	19	日本 (岡山県)	中国 IB チャンピオン
T.E.SPORT (ティー・イー・スポーツ)		28	大塚 貴斗 (オオツカ・タカト)	19	日本 (埼玉県)	IA2 28位
		34	山崎 巧也 (ヤマザキ・タクヤ)	16	日本 (埼玉県)	IA2 —
		36	根岸 瑞生 (ネギシ・ミズキ)	24	日本 (埼玉県)	IA2 参戦
		04	千葉 蓮希 (チバ・ハズキ)	19	日本 (宮城県)	IB-OPEN 4位

<レディース (LMX) >

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
T.E.SPORT (ティー・イー・スポーツ)	CRF150R II	2	川井 麻央 (カワイ・マナカ)	20	日本 (埼玉県)	LMX 2位
		10	山崎 琴乃 (ヤマザキ・コトノ)	15	日本 (埼玉県)	LMX 10位
		17	濱村 いぶき (ハナムラ・イブキ)	16	日本 (福岡県)	LMX 17位
Team Yamamoto (チーム・ヤマモト)		5	楠本 菜月 (クスモト・ナツキ)	19	日本 (大阪府)	LMX 5位
TEAM HAMMER (チーム・ハマー)		8	瀬尾 柚姫 (セオ・ユズキ)	15	日本 (広島県)	LMX 8位
Team ITOMO (チーム・イトモ)		9	箕浦 未夢 (ミノウラ・ミュウ)	17	日本 (愛知県)	LMX 9位

◆MFJ 全日本トライアル選手権 (JTR)

<IA スーパー (IAS) >

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2021年戦績
TEAM MITANI Honda (チーム・ミタニ・ホンダ)	RTL301RR	1	小川 友幸 (オガワ・トモユキ)	46	日本 (三重県)	IAS チャンピオン
		3	氏川 政哉 (ウジカワ・セイヤ)	20	日本 (三重県)	IAS 3位

《アジア》 2023年3月3日更新

◆FIM アジアロードレース選手権 (ARRC)

<ASB1000>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Honda Asia-Dream Racing with SHOWA (ホンダ・アジアドリーム・レーシング・ウィズ・ショーワ)	CBR1000RR-R FIREBLADE	1	Zaqhwan Zaidi (ザクワン・ザイディ)	27	マレーシア	ARRC ASB1000 チャンピオン
		23	Andi Farid Izdihar (アンディ・ファリド・イズディハール)	25	インド ネシア	ARRC SS600 チャンピオン
Astemo SI Racing with Thai Honda (アステモ・エス・アイ・レーシング・ウィズ・タイ・ホンダ)		95	Passawit Thitivararak (パスウィット・ティティワララック)	26	タイ	ARRC ASB1000 9位
SDG Motorsports HARC-PRO Honda PH (ショーワ・デンキ・グループ・モータースポーツ・ハルキ・プロ・ホンダ・フィリピン)		73	埜口 遥希 (ノグチ・ハルキ)	21	日本 (奈良県)	ARRC ASB1000 2位

## 《北米》

### ◆AMA スーパークロス選手権

#### <450SX>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Team Honda HRC (チーム・ホンダ・エイチアールシー)	CRF450R	23	Chase Sexton (チェイス・セクストン)	23	米国	450SX 6位
		45	Colt Nichols (コルト・ニコルズ)	28	米国	—

#### <250SX>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Team Honda HRC (チーム・ホンダ・エイチアールシー)	CRF250R	18	Jett Lawrence (ジェット・ローレンス)	19	オーストラリア	250SX East チャンピオン
		96	Hunter Lawrence (ハンター・ローレンス)	23	オーストラリア	250SX West 2位
		832	Chance Hymas (チャンス・ハイマス)	17	米国	Futures National チャンピオン

### ◆AMA プロモトクロス選手権

#### <450MX>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Team Honda HRC (チーム・ホンダ・エイチアールシー)	CRF450R	23	Chase Sexton (チェイス・セクストン)	23	米国	450MX 2位
		45	Colt Nichols (コルト・ニコルズ)	28	米国	—

#### <250MX>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Team Honda HRC (チーム・ホンダ・エイチアールシー)	CRF250R	18	Jett Lawrence (ジェット・ローレンス)	19	オーストラリア	250MX チャンピオン
		96	Hunter Lawrence (ハンター・ローレンス)	23	オーストラリア	250MX 3位
		832	Chance Hymas (チャンス・ハイマス)	17	米国	250MX 37位

## 《四輪参戦体制概要》

### 《日本》

#### ◆全日本スーパーフォーミュラ選手権 (SF)

チーム名	No.	ドライバー	年齢	国籍	2022年戦績
TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	1	野尻 智紀 (ノジリ・トモキ)	33	日本 (茨城県)	SF チャンピオン
	15	Liam Lawson (リアム・ローソン)	20	ニュージー ランド	F2 3位
DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモ・チーム・ダンディライアン・ レーシング)	5	牧野 任祐 (マキノ・タダスケ)	25	日本 (大阪府)	SF 5位
	6	太田 格之進 (オオタ・カクノシン)	23	日本 (京都府)	SFL 2位
ThreeBond Racing (スリーボンド・レーシング)	12	福住 仁嶺 (フクズミ・ニレイ)	25	日本 (徳島県)	SF 19位
B-Max Racing Team (ビーマックス・レーシング・チーム)	50	松下 信治 (マツシタ・ノブハル)	29	日本 (埼玉県)	SF 13位
	51	Raoul Hyman (ラウル・ハイマン)	26	英国	フォーミュラ・ リージョナル・ アメリカ チャンピオン
TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	64	山本 尚貴 (ヤマモト・ナオキ)	34	日本 (栃木県)	SF 10位
	65	佐藤 蓮 (サトウ・レン)	21	日本 (神奈川県)	SF 12位

### ◆SUPER GT <GT500 クラス>

チーム名	No.	ドライバー	年齢	国籍	2022 年戦績
ARTA (エーアールディーエー)	8	野尻 智紀 (ノジリ・トモキ)	33	日本 (茨城県)	GT500 12 位
		大湯 都史樹 (オオユ・トシキ)	24	日本 (北海道)	GT500 14 位
	16	福住 仁嶺 (フクズミ・ニレイ)	25	日本 (徳島県)	GT500 12 位
		大津 弘樹 (オオツ・ヒロキ)	28	日本 (埼玉県)	GT500 15 位
Astemo REAL RACING (アステモ・リアル・レーシング)	17	塚越 広大 (ツカコシ・コウダイ)	36	日本 (栃木県)	GT500 4 位
		松下 信治 (マツシタ・ノブハル)	29	日本 (埼玉県)	
Modulo Nakajima Racing (モデュール・ナカジマレーシング)	64	伊沢 拓也 (イザワ・タクヤ)	38	日本 (東京都)	GT500 15 位
		太田 格之進 (オオタ・カクノシン)	23	日本 (京都府)	GT300 8 位
TEAM KUNIMITSU (チーム・クニミツ)	100	山本 尚貴 (ヤマモト・ナオキ)	34	日本 (栃木県)	GT500 3 位
		牧野 任祐 (マキノ・タダスケ)	25	日本 (大阪府)	

### ◆SUPER GT <GT300 クラス>

チーム名	No.	ドライバー	年齢	国籍	2022 年戦績
TEAM UPGARAGE (チーム・アップガレージ)	18	小林 崇志 (コバヤシ・タカシ)	35	日本 (広島県)	GT300 8 位
		小出 峻 (コイデ・シュン)	23	日本 (大阪府)	FIA-F4 チャンピオン

## 《北米》

### ◆インディカー・シリーズ

チーム名	No.	ドライバー	年齢	国籍	2022年戦績
Meyer Shank Racing (マイヤー・シャンク・レーシング)	06	Hélio Castroneves (エリオ・カストロネベス)	47	ブラジル	インディカー・シリーズ 18位
	60	Simon Pagenaud (シモン・パジェノー)	38	フランス	インディカー・シリーズ 15位
Chip Ganassi Racing (チップ・ガナッシ・レーシング)	8	Marcus Ericsson (マーカス・エリクソン)	32	スウェーデン	インディカー・シリーズ 6位
	9	Scott Dixon (スコット・ディクソン)	42	ニュージーランド	インディカー・シリーズ 3位
	10	Alex Palou (アレックス・パロウ)	25	スペイン	インディカー・シリーズ 5位
	11	Marcus Armstrong (マーカス・アームストロング)	22	ニュージーランド	FIA-F2 13位
Rahal Letterman Lanigan Racing (レイホール・レターマン・ラニガン・レーシング)	15	Graham Rahal (グレアム・レイホール)	33	米国	インディカー・シリーズ 11位
	30	Jack Harvey (ジャック・ハーヴィー)	29	英国	インディカー・シリーズ 22位
	45	Christian Lundgaard (クリスチャン・ルンガー)	21	デンマーク	インディカー・シリーズ 14位
Dale Coyne Racing (デイル・コイン・レーシング)	18	David Malukas (デイビッド・マルカス)	21	米国	インディカー・シリーズ 16位
	TBA	TBA	—	—	—
Andretti Autosport (アンドレッティ・オートスポーツ)	26	Colton Herta (コルトン・ハータ)	22	米国	インディカー・シリーズ 10位
	27	Kyle Kirkwood (カイル・カークウッド)	24	米国	インディカー・シリーズ 24位
	28	Romain Grosjean (ロマン・グロージャン)	36	フランス	インディカー・シリーズ 13位
Andretti Steinbrenner Autosport (アンドレッティ・シュタインブレナー・オートスポーツ)	29	Devlin DeFrancesco (デブリン・デフランチェスコ)	22	カナダ	インディカー・シリーズ 23位
TBA	TBA	佐藤 琢磨 (サトウ・タクマ)	45	日本 (東京都)	インディカー・シリーズ 19位

## ◆IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権

チーム名	No.	ドライバー	年齢	国籍	2022年戦績
Wayne Taylor Racing (ウェイン・テイラー・レーシング)	10	Ricky Taylor (リッキー・テイラー)	33	米国	IMSA DPi 2位
		Filipe Albuquerque (フィリペ・アルバカーキ)	37	ポルトガル	IMSA DPi 2位
Meyer Shank Racing (マイヤー・シャンク・レーシング)	60	Tom Blomqvist (トム・ブロムクビスト)	29	英国	IMSA DPi チャンピオン
		Colin Braun (コリン・ブラウン)	34	米国	IMSA LMP3 チャンピオン

### 《二輪ライダー・四輪ドライバー育成》

ホンダモビリティランド（株）では、「モータースポーツで世界に通用する選手を育成する」ことを目的として、1992年に二輪の「鈴鹿サーキット・レーシングスクール ジュニア」を設立。1993年に「鈴鹿サーキット・レーシングスクール カート（SRS-Kart）」、1995年には「鈴鹿サーキット・レーシングスクール フォーミュラ（SRS-Formula）」を開校。そして2022年には育成の質のさらなる向上を目指して名称を「ホンダ・レーシングスクール（HRS）」に変更し、トップライダー、トップドライバーを講師に迎え運営しています。これまでに数多くの卒業生が国内外の二輪・四輪それぞれのカテゴリーで活躍してきました。

さらに、トップカテゴリーを目指した選手育成システムとして、二輪においては、2023年も引き続き MotoGP の Moto2・Moto3 クラスに参戦する Honda Team Asia の活動を継続するとともに、若手育成のプログラムとして IDEMITSU Asia Talent Cup（イデミツ・アジア・タレント・カップ）を引き続き活用し、世界で活躍できるライダーのさらなる発掘・育成に取り組めます。

四輪においては、ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト（HFDP）として、欧州のフォーミュラカテゴリーや、日本の FIA-F4、Super Formula Lights などに育成シートを用意し、選手育成の環境をより一層強化します。また、Red Bull との育成に関する協力関係も継続・強化します。欧州では FIA-F2 に加えて、英国 GB3 へも日本人ドライバーの育成派遣を共同で行う計画です。さらに、日本では、2022年に続き Red Bull のドライバーが HRS のアンバサダーに就任し、世界トップレベルのドライバーが持つ技術をスクール生に直接伝えることで、世界を目指すスクール生の成長をサポートします。加えて、全日本スーパーフォーミュラ選手権で行っている Red Bull とのジョイント育成プログラムを継続するほか、2023年からは HPD とのジョイントで、フォーミュラ・リージョナル・アメリカの TOP ドライバーを招聘するスカラシップを開始します。

## ◆FIM ロードレース世界選手権 (MotoGP)

### <Moto2>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
IDEMITSU Honda Team Asia (イデミツ・ホンダ・チーム・アジア)	KALEX	35	Somkiat Chantra (ソムキアット・チャントラ)	23	タイ	Moto2 10位
		79	小椋 藍 (オグラ・アイ)	21	日本 (埼玉県)	Moto2 2位

### <Moto3>

チーム名	マシン	No.	ライダー	年齢	国籍	2022年戦績
Honda Team Asia (ホンダ・チーム・アジア)	NSF250RW ☆	64	Mario Aji (マリオ・アジ)	18	インド ネシア	Moto3 26位
		72	古里 太陽 (フルサト・タイヨウ)	17	日本 (鹿児島県)	Moto3 27位

## ◆FIA フォーミュラ・ツー選手権 (F2)

チーム名	No.	ドライバー	年齢	国籍	2022年戦績
DAMS (ダムス)	TBA	岩佐 歩夢 (イワサ・アユム)	21	日本 (大阪府)	FIA-F2 5位

## ◆英国 GB3 選手権

チーム名	No.	ドライバー	年齢	国籍	2022年戦績
HITECH GP	TBA	荒尾 創大 (アラオ・ソウタ)	17	日本 (東京都)	フランス F4 3位

## ◆全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権 (SFL)

チーム名	No.	ドライバー	年齢	国籍	2022年戦績
B-Max Racing Team (ビーマックス・レーシング・チーム)	50	木村 偉織 (キムラ・イオリ)	23	日本 (東京都)	SFL 3位
TODA RACING (トダ・レーシング)	2	小出 峻 (コイデ・シュン)	23	日本 (大阪府)	FIA-F4 チャンピオン

## ■モータースポーツ普及活動

Honda は、モータースポーツの普及にも積極的に取り組んでいます。モータースポーツ初心者でも気軽に楽しめるイベントを開催するなど、幅広い層の皆様にモータースポーツの魅力伝えることを目的としたさまざまな活動を行っています。

### <株式会社ホンダ・レーシング (HRC) ワンメイクレース シリーズ>

HRC によるワンメイクレースは、モータースポーツを楽しむカテゴリーと将来の MotoGP ライダー育成を目的としたカテゴリーに分かれ、全国約 30 カ所のサーキットで開催されています。

市販車両を使用した「HRC GROM Cup」、「CBR250R Dream Cup」、「CBR250RR Dream Cup」をはじめ、HRC の市販レーサーを使用したミニバイククラスの「NSF100 HRC トロフィー」、および将来の MotoGP ライダーを育成するための「HRC NSF250R Challenge」も開催しています。

これらの HRC ワンメイクレースシリーズは、全国各地のサーキットで開催され、一定の条件を満たした参加者を対象に全国大会の実施や、育成クラスのステップアップ支援制度など、参加者がレースを楽しんだり、夢を実現したりするプログラムとなっています。

### <N-ONE OWNER'S CUP>

軽自動車「N-ONE」による参加型モータースポーツ「N-ONE OWNER'S CUP」は、レース入門者をはじめとした、より多くの方が気軽に参加し、走る喜び・操る喜びを感じていただけるレースを目指し、2014 年から開催しているナンバー（車両番号標）付き車両によるスプリントレースです。ご好評をいただいているコンセプトはそのままに、今年も 8 カ所（鈴鹿サーキット、モビリティリゾートもてぎ、岡山国際サーキット、富士スピードウェイ、オートポリス、スポーツランド SUGO、十勝スピードウェイ、筑波サーキット）で開催します。

### <Honda Sports Driving Program [SCHOOL] >

2012 年から開催していた「Honda Sports & Eco Program」を 2022 年にリニューアルし、新たに「Honda Sports Driving Program [SCHOOL]」がスタート。2023 年も鈴鹿サーキット及びモビリティリゾートもてぎで開催します。

「Honda Sports Driving Program [SCHOOL]」は FIT RS<sup>※6</sup> のレース仕様車両を使用し、「操る・磨く・競う」をコンセプトにモータースポーツの楽しさを誰でも気軽に体感できるプログラムです。マシンはもちろん、装備品のレンタルもご準備しており手ぶらでご参加いただけます。また、プログラム内で各種ライセンスの取得も可能となっており、モータースポーツ初心者の方からレース出場を見据える方まで、幅広い方々にお楽しみいただけます。

ご参考：URL

<https://www.honda.co.jp/drivers-challenge/hdp-school/about/>

※6 先代の FIT RS

## <Honda エコ マイレヅジ チャレンジ 2023>

Honda は、創造力と自由な発想、そして技術を結集した手作りのマシンを使って、1L のガソリンで何 km 走行できるかを競う「Honda エコ マイレヅジ チャレンジ」を 1981 年から開催し、初回大会以来のべ約 1 万 5000 チーム以上が参加しています。

## Honda エコ マイレヅジ チャレンジ 2023 国内開催スケジュール

開催日程	大会名	開催会場
6月3日 (土)	Honda エコ マイレヅジ チャレンジ 2023 第14回 もてぎ大会	モビリティリゾートもてぎ 西コース (栃木県)
6月10日 (土)	Honda エコ マイレヅジ チャレンジ 2023 第36回 鈴鹿大会	鈴鹿サーキット 東コース (三重県)
8月6日 (日)	Honda エコ マイレヅジ チャレンジ 2023 第38回 九州大会	HSR九州 サーキットコース (熊本県)
9月9日 (土) : 練習走行 9月10日 (日) : 決勝	本田宗一郎杯 Honda エコ マイレヅジ チャレンジ 2023 第42回 全国大会	モビリティリゾートもてぎ スーパースピードウェイ (栃木県)

## <Honda Racing THANKS DAY>

Honda は、モータースポーツファンの皆様に対する感謝イベント「Honda Racing THANKS DAY 2023」を 2023 シーズン終了後に開催します。日程やプログラムは決定次第、ホームページにてご案内します。

## <ご参考 : ホンダモビリティランド (株) で行う主な国際レースについて>

ホンダモビリティランド (株) は、2023 年もさまざまなレースやイベントを開催し、日本のモータースポーツ文化のさらなる発展への貢献を目指しています。

鈴鹿サーキットは、日本初の本格レーシングコースとして 1962 年に開場し、参戦 3 年目となる日本人ドライバー角田裕毅選手の活躍が期待される F1 日本グランプリのほか、FIM 世界耐久選手権 (EWC) の一戦として開催される鈴鹿 8 耐などを開催します。モビリティリゾートもてぎでは、FIM ロードレース世界選手権 (MotoGP) のほか、FIM トライアル世界選手権 (TrialGP) など、年間を通してさまざまなレース、イベントを開催します。

## 主な国際レースの開催スケジュール

カテゴリー	開催日程	大会名	開催会場
TrialGP	5月20日 (土) ~21日 (日)	2023 FIM トライアル世界選手権 日本グランプリ	モビリティリゾートもてぎ (栃木県)
EWC	8月4日 (金) ~6日 (日)	2023 FIM 世界耐久選手権 鈴鹿8時間耐久ロードレース 第44回大会	鈴鹿サーキット (三重県)
F1	9月22日 (金) ~24日 (日)	2023 FIA F1世界選手権 日本グランプリレース	鈴鹿サーキット (三重県)
MotoGP	9月29日 (金) ~10月1日 (日)	2023 FIM MotoGP世界選手権シリーズ 日本グランプリ	モビリティリゾートもてぎ (栃木県)